

I 道路改良事業：主要地方道呉平谷線

(1) 事業概要

- ① 事業箇所 呉市上二河町～呉市焼山此原町
- ② 規模等 道路延長：2,400m 車道幅員：12.0m（全幅員：19.0m）
- ③ 全体事業費 16,755 百万円（前回の再評価時は 9,400 百万円）
- ④ 工期 平成 16 年度～令和 12 年度（前回の再評価時は平成 16 年度～令和 11 年度）

(2) 再評価の事由

前回の再評価後 5 年が経過した時点で継続中の事業であるため。

(3) 審議内容

① 事業の内容と必要性

本路線は一般国道 31 号を起点に安芸郡熊野町に至る、呉市の南北軸を形成する幹線道路で、本県の第二次緊急輸送道路に位置付けられている。

すでに本事業区間は一次改良済みではあるが、急峻な地形で線形も悪く、沿線の急速な開発等により、朝夕には慢性的な渋滞が発生している。また、豪雨等の災害時に通行止めとなることもあり、代替路線の確保が求められていることから、引き続き本事業を推進していく必要がある。

② 事業を巡る社会情勢及び必要性等の変化

国勢調査によれば、呉市の人口は、平成 27 年度の 228,552 人に対し、令和 2 年度は 214,592 人と減少傾向にある。この傾向は事業区間の交通量に関しても同様で、道路交通センサスによれば、平成 27 年度は 19,417 台／日 令和 3 年度は 18,343 台／日である。

しかしながら、前述の通り本路線は第二次緊急輸送道路に位置付けられており、大規模な災害が発生したときの本地域における救命活動や物資輸送などを迅速かつ確実に行うためには不可欠な路線であることから、現時点でもその必要性は変わらないと考えられる。

③ 進捗状況と今後の見通し

工期が令和 12 年度まで 1 年延長されているが、これは橋梁、トンネルの詳細設計が完了したことに伴うものである。今後は、橋梁工事を推進するとともに、橋梁工事の完了後にはトンネル工事への着手を予定している。

④ 事業費の増減と現時点での費用便益比

前回の再評価時と比較し、全体事業費が 168 億円と 74 億円増加している。これは、物価上昇及び橋梁、トンネルの詳細設計が完了し、事業費の見直しを行ったことによる増額である。

費用便益比 B/C については、「費用便益分析マニュアル（令和 5 年 12 月 国土交通省 道路局 都市局）」に準拠して行われた分析によれば、評価期間を供用後の 50 年間、社会的割引率を 4.0%とした結果、前回の 1.6（総便益（B）：139.5 億円、総費用（C）：86.2 億円）から 1.2（総便益（B）：207 億円、総費用（C）：168 億円）と減少している。

⑤ その他特筆すべき事項

当該区間の整備により、走行性が大きく向上するため、大規模災害直後から発生する救命活動・物資輸送などを迅速かつ確実に実施するなど、大規模災害時の安全・安心の確保という、数値に現れない効果が期待できる。

(4) 結論

事業の必要性と費用便益比を勘案し、当該事業の継続実施については適当と判断する。

関係各位には、予定としている令和 12 年度までに事業を完了させ、計画どおりの事業効果が得られるよう、一層の努力をお願いする。